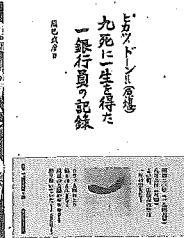
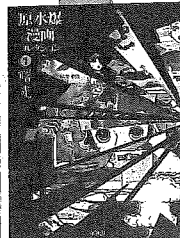


●堀川恵子著『原爆供養塔』  
 広島原爆記念公園の片隅に7万人の遺骨が眠る小塚「原爆供養塔」がある。本書は、原爆で肉親を喪い、40年間遺骨の供養や供養塔の清掃、遺族捜しを続けてきた佐伯敏子の生涯を追う。死者の名を書き残した少年特攻兵、遺骨名簿に記された生存者などの逸話も。死者と寄り添うことで戦争の記憶と悲劇を伝える感動の記録だ。(文芸春秋・1890円)



●原水爆漫画コレクション①  
 『曙光』②『閃光』③『焰光』④『残光』 原水爆と原子力の脅威を描いた戦後マンガ家たちの選集。原子力施設の事故を扱った手塚治虫。水爆実験後の記録漫画「ピキニ 死の灰」。谷川一彦の長編漫画は広島原爆で肉親

を亡くした少女の物語。さらに赤塚不二夫・中沢啓治・白土三平・滝田ゆうらの原爆の惨禍や、被爆者たちの困難に晒された戦後を描いた、なかなか目に見えない作品を集める。各巻解説付き。(平凡社・各3024円)

●熊巳武彦  
 著『ピカッ、ドーン!! (原爆) 九死に一生を得た一銀行員の記録』  
 1945年8月

6日の広島原爆時の混乱を、当時の三菱銀行広島支店の行員が半世紀後に書き残した記録文集。自身の被爆体験、惨劇に見舞われた街や被災者の様子とその余波を淡々とつづる。被害の状況や米軍の調査、戦後差別にあった被爆者…。被爆後のバラックでの銀行業務や再建の様子も描かれる。

(大原哲夫編集室・1512円)

新刊

ピッカアップ